

## 二十周年記念号発刊によせて

沖縄大学・沖縄短期大学が、沖縄最古の私学として、設立されてから、早二十年の歳月を閲した。

この二十年の歳月は、まさに苦難の歴史であり、ある人は、この二十年の沖縄大学・沖縄短期大学の歴史を、沖縄の縮図のようなものであると、評したことがある。

民主化闘争・存続闘争を経た沖縄大学・沖縄短期大学は、またまた破滅的な財政危機を克服する再建闘争に取り組まざるを得なかった。

この再建闘争の過程で、沖縄大学・沖縄短期大学は、「沖縄という地域に根ざし、沖縄という地域に学び、沖縄という地域に奉仕する、開かれた大学」を、基本理念とする、新生のあゆみをはじめた。

この新生のあゆみは、わずか一年半の期間とはいえ、確固たるものとなった。

ペーパーテストによる、入学志願者の選別の廃止、をはじめとする、さまざまな大学改革が、意欲的に取り上げられてきたし、これからもなお大学改革は永遠に追求されていくことになっている。

大学教育の特色は、それが常に新しい研究に支えられていることが、必須・不可欠の条件とされているところにあると思われる。

沖縄大学の教育が、より優れたものであるためには、それぞれの教員が、不断に学び続け、その研究成果を、教育に反映させていくことが不可欠であり、そのことが義務づけられるからといって、新生沖縄大学の教員としては、過酷の義務ではあるまい。

大学創立二十周年を記念して、わが大学のささやかな研究成果を公にして、広く学界の批判を仰ぎ、今後の我々の新たな前進のための糧としたい。

1980年3月20日

沖縄大学学長

安良城 盛 昭